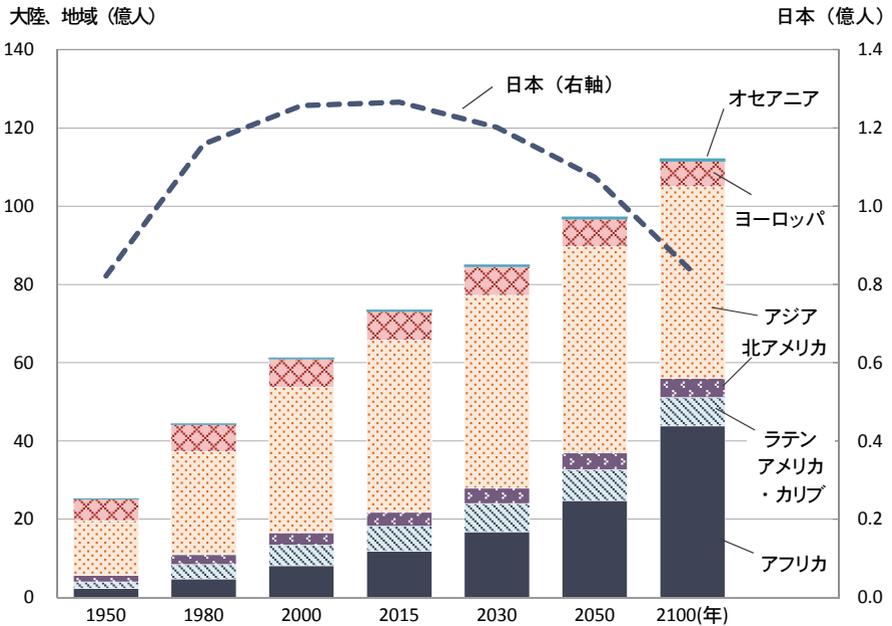


2-1 世界、大陸及び主要地域の人口（中位推計）



▶ グラフの具体的な数値及び資料出所については、「第2-1表 総人口」(p.55)を参照。

20世紀初頭に約15億人であった世界人口は、1950年以降飛躍的に増加し、1974年以降は増加率が低下したものの、2000年には61億人に達し、2011年後半に70億人を越えた。

国連が隔年ベースで公表する『世界人口予測』の2015年改訂版(本書の資料出所)によると、2015年半ばに73億人であった世界人口は、中位推計で2030年に85億人、2050年に97億人に増加し、2100年には112億人に達する見通しである。

人口増加の大半は発展途上地域で発生し、2015年の60億人から2050年には84億人に増加し、2100年には99億人に達すると予測されている。一方、2015年に12.5億人だった先進地域の人口は、2050年は12.9億人、2100年は12.8億人と同水準で推移する見込みである。日本の人口は2015年の1億2,700万人から2050年に1億700万人、2100年には8,300万人へと減少すると推計されている。

2015～2050年の人口の増加は、エチオピア、コンゴ民主共和国をはじめとするアフリカ諸国に加えて、アメリカ合衆国、インド、インドネシア、ナイジェリア、パキスタンなど人口規模の大きい国に集中している。